

ねくさす通信

Vol.13

【発行】令和6年 7月 20日

地域活動ホーム ガッツ・びーと西

横浜障がい相談システム ねくさす

【問い合わせ】

〒220-0051 横浜市西区中央 1-18-22-103

TEL045-594-7681 FAX045-594-7682

2024年こんなことを考えています。

数年前 障害者権利条約に関連して日本は国連から大きな勧告を3つ提起されました。

- ① インクルーシブ教育をもっと進めること
- ② 障害入所施設からの地域移行（脱施設）
- ③ 精神病院の社会的入院を少なくしていくこと。そんなことも考えつつ・・・。

ひとつは「障がいあるひとの暮らしを考える～入所支援施設から学ぶ・協働」と称して改めて障がいある人の「生活」がどうあればいいかを考えてみます。（国連勧告③関連）

私たち地域福祉の場で働くものは入所施設および入所者の実態を知っているだろうか。僕らは地域移行・地域拠点と云うならば大いに「入所」を学ばなければいけないのでは。「入所」と「地域」は分断されるものではなく 特に横浜のような都市部ではそれぞれの機能を協議し「入所施設」を新たな「地域施設」と位置付けることも大事ではないか。入所経験して。また「入所」しないで「地域生活」が出来る仕組みも「入所」・「地域」で働く人たちが共々考えていくことではないだろうか。

そしてこんな企画が動き出します。横浜にある入所施設の見学会そしてその施設から発信・提起していただき皆でワークする。そんな形を4回ほど行い年明けに皆でデイスカッションし それを概略まとめ横浜市に提起。その中で具体的な事業展開実施できないかなと考えています。例えば簡単に地域移行といってもその具体的な地域体験が出来なければ絵にかいた餅または能書きにとどまってしまうでしょう。「体験」試行そして「地域生活」のありかたを考えていきながら。あわせて心ある有志で具体的な「地域生活プロジェクト」を発足出来ればなあと。

ふたつは西区野毛山につくられる市内5か所目になる「重心多機能施設」応援！のことです。今回特筆すべきこととして 同じ地域にある市立図書館及び野毛山動物園も一緒に。その名も「のげやまインクルーシブ構想」と名付け 地域を変えるべく 新しい「まちづくり」がはじまろうとしています。「インクルージョン」という言葉が行政の事業計画・言葉は初めて？<誰も排除しないこと>これがインクルージョンということです。福祉サイドより教育で多く使われる言葉です。上記勧告もある中での「のげやまインクルーシブ構想」です。その中に「重心多機能施設」が位置付けられたのは大きなことです。あらためて「重心」の方々が有名になるといいなと。この施設だけでなく 周辺のまちづくりに協力しつつ 新しく魅力あふれる「街」が出来ることを応援。その進捗は「西区重心ネット」に報告しつつ、機会あれば様々な発信をしていきます。

受託する法人が決まっていない今だからこそ。新たな「連携模索」「連携作り」を考えるべきだし。創っていかねばと。そんな思いでいます。

上記ふたつをていねいに議論しつつ 具体的に実現化していきます。

今後とも ガッツ・びーと西 そして ねくさすをよろしくお願いいたします。

ねくさす

渡辺幹夫



交流会「お結びの会」を開催しました

3月の日曜日に、ガッツ・ビーと西の5階食堂にて、後見的支援事業の登録者とその家族や「あんしんキーパー」、その他地域の方々も含めた交流会を開催しました。

区内で活動されている折り紙講師のたかこ先生をお招きし、縁起の良い「だるま」を折り紙で作り、お互いに顔を知る関係作りの一歩が進んだ!? 実は、今回参加したキーパーさんの一人は、以前から講師の先生をご存じだったようで、こんなところにも一つの「つながり」があった事を発見!

続いて、昼食には「自作おむすび作り」。自分達が食べたい具をのせて、握って、多い人は5つ? 6つ!?ん?「おにぎり」ではなく、人と人とをつなぐための「お結び」企画です。



交流会の最後は、3月末で後見的支援室を離れてしまう職員のために、登録者の方が準備した紙吹雪!!これからも一つの「つながり」を大切にしていきたいと思います。

●文/写真 後見:森、桃井



ねくさすの小さなお庭



夏の陽射しをたっぷり浴びて、ねくさす前の草木はぐんぐん大きく育ち、緑が眩しく映ります。今時期は花が咲いていないかな?と思ったら、可愛らしいピンクの花が咲いていました。その時期にしか会えない花を見て、人との繋がりに似ているなあと感じる夏です。



【編集後記】 毎日うだるような暑さが続きますが、これからが夏本番ですね!適度に休んで、水分補給もこまめに行い、健康な日々を過ごしましょう。

ねくさす職員一同